

年度	2025
講義名	日本語学概論 I
担当教員	三好 伸芳
開講期・曜日・時限・教室	後期 木曜日 3時限 武蔵野 1102
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	1年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、日本語学において扱われる基礎的な概念を参照しながら、日本語がどのような特徴を持つ言語で、どのような研究方法があるのかといった点について学ぶ。言語の普遍的な性質と世界における日本語の位置づけについて説明したうえで、言語学で問題にされる諸分野を取り上げ、言語および日本語を分析的に捉える感覚を身につける。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の成り立ちや日本語の特徴の概要を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を理解し説明することが出来る。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、日常的に接している日本語を言語学的な観点から問い直し、日本語の特徴および日本語学における問題意識を取り上げる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	---

授業手法		対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり		—
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし		—
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)		—
E: グループワーク		—
F: 発表 (プレゼンテーション)		—
G: 実習、フィールドワーク		—
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
J: 講義のみ		○
K: その他		—

活用形態		対象
A: ノートPC必携		—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
G: その他		—

* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習 (事前学修)	各授業	予習課題について調べてくる。
	[120]分	

復習 (事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)		0 %

成績評価	小テスト	毎回の授業内試験	80%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20%

授業回	内容
1.	第1回 言語学と日本語学 予習(120分):日本語学とはどのような学問かを調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 言語の恣意性 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 世界の中の日本語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 日本語の音声・音韻(1):単音と音素 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 日本語の音声・音韻(2):音節と拍 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 日本語の音声・音韻(3):アクセント 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 形態論:活用体系と揺れ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 統語論:構成素構造 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 意味論:文と名詞の意味 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 語用論:発話の推意 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 文法論:文法範疇 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 語彙論:語彙の体系 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

	13.	第13回 文字論:漢字と仮名 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	14.	第14回 社会言語学:方言と言語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名 著者 出版社 ての世、教 科書に関する履修 学生への連絡 事項(非公 書)	ISBN(13桁)
	2.	書籍名 著者 出版社 ての世、教 科書に関する履修 学生への連絡 事項(非公 書)	ISBN(13桁)
	3.	書籍名 著者 出版社 ての世、教 科書に関する履修 学生への連絡 事項(非公 書)	ISBN(13桁)
	4.	書籍名 著者 出版社 ての世、教 科書に関する履修 学生への連絡 事項(非公 書)	ISBN(13桁)
	5.	書籍名 著者 出版社 ての世、教 科書に関する履修 学生への連絡 事項(非公 書)	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名 著者 出版社 参考図書に 関する履修 学生への連 絡事項	新ここからはじまる日本語学 伊坂淳一 ひつじ書房	ISBN(13桁)	978-4894767102
	2.	書籍名 著者 出版社 参考図書に 関する履修 学生への連 絡事項		ISBN(13桁)	
	3.	書籍名 著者 出版社 参考図書に 関する履修 学生への連 絡事項		ISBN(13桁)	
	4.	書籍名 著者 出版社 参考図書に 関する履修 学生への連 絡事項		ISBN(13桁)	

	5. 著者 出版社 <small>参考図書に関する履修学生への通</small>	ISBN(13桁)											
その他 <small>(配布教材等により購入不要)</small>	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 2. 配布教材等に関する履修学生への通 3. 配布教材等に関する履修学生への通 4. 配布教材等に関する履修学生への通 5. 配布教材等に関する履修学生への通	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。											
参考URL	1. webサイト名 URL <small>参考URLに関する履修学生への通</small> 2. webサイト名 URL <small>参考URLに関する履修学生への通</small> 3. webサイト名 URL <small>参考URLに関する履修学生への通</small> 4. webサイト名 URL <small>参考URLに関する履修学生への通</small> 5. webサイト名 URL <small>参考URLに関する履修学生への通</small>												
実務経験のある教員等による授業科目 <small>(実践的教育を行う授業科目)</small>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="300 1086 1391 1160">実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th data-bbox="1391 1086 1513 1160">対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="300 1160 1391 1214"> a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 <small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small> </td> <td data-bbox="1391 1160 1513 1214"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1214 1513 1339"> 授業内容との関連性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1339 1391 1482"> b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 <small>学外講師の経歴・資格等</small> </td> <td data-bbox="1391 1339 1513 1482"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1482 1513 1796"> 授業内容との関連性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1796 1391 1850"> c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 <small>実習先・実習の目的</small> </td> <td data-bbox="1391 1796 1513 1850"></td> </tr> </tbody> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別	対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 <small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small>		授業内容との関連性		b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 <small>学外講師の経歴・資格等</small>		授業内容との関連性		c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 <small>実習先・実習の目的</small>	
実践的教育を行う授業科目の種別	対象												
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 <small>担当教員の実務経験(経歴・資格等)</small>													
授業内容との関連性													
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 <small>学外講師の経歴・資格等</small>													
授業内容との関連性													
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 <small>実習先・実習の目的</small>													

備考

年度	2025
講義名	漢文学
担当教員	楊 昆鵬
開講期・曜日・時限・教室	前期 木曜日 1時限 武蔵野 1102
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	1年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	漢文学入門そして日本文学文化学科の学修全体の基礎の一部と位置づけられるこの必修科目は、まず高校時代までの知識ポイントを復習しつつ、日本語における漢字、中国文学文化の歴史、漢文訓読法の基本、また日本における中国古典文学の受容などについて体系的に講義する。特に多くの学生が「漢文」「訓読」に対して持っている苦手意識を除去し、日本文学文化の一部である漢文に慣れ親しむことを目標とする。『史記』の名場面をコンスタントに読み進めることを通して漢文の感覚を身に付ける。
------	--

知識・専門性の到達目標	漢文学という学問分野の含む範疇を把握し、漢字・熟語・漢文の構造また漢文訓読の基本的な方法や訓読の歴史について理解している。中国古典文学文化の歴史および史伝文学の歴史の概要を把握し、『史記』について基本的な知識を備えている。訓点の使い方や基本的な助字また基本的な構文について習熟しており、訓点に従って書き下し文を作ることができる。【知識・専門
関心・態度・人格の到達目標	古代の帝王や賢人、英雄たちの事蹟に関心を持ち、彼らの置かれた社会環境や直面した問題をイメージし、その行動や決断の背景や考え方について理解することができる。また古代東アジア社会の価値観や社会文化の通念についても基本的な知識を備え、古典文学作品を読み解く際に当時の価値観と風習を踏まえて作品の内容を考えることができる。【他者理解力・人格形成】
思考力・判断力の到達目標	白文に対して助字や構文または語彙表現から規則性を見出し、大意を想像して文脈を推測することができる。一部の白文に対して訓点を付けることもできる。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	正しく書き下し文を作り、簡潔にして意味のよく伝わる現代日本語訳を作ることができる。漢字や熟語または故事成語の知識素養を増やし、総合的な文章表現に応用することができる。【文章表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	①授業内でアンケートをとり、学生に高校時代での漢文学修の状況を把握し、授業の内容や難易度を調整する。学生にはそれぞれの優先すべき課題を洗い出してもらう。 ②予習復習を促し、講義録画を提供して授業ノートの提出を求める。そこにQ&Aのチャンス进行。 ③中間テストを行い、授業に慣れない学生、基礎学力が不足する学生を見つけ、補習を行う。
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	-
	C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-
	E: グループワーク	-
	F: 発表(プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-
	J: 講義のみ	○
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	-
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
	E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	○
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	○
	G: その他	-

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	各授業	漢和辞典を用いて漢字や用語を調べておくこと。 配布資料を通読し、大意を把握し、文法の難点を見つけておくこと。 登場人物や事件について下調べておくこと。
	[平均90]分	

復習(事後学修)	各授業	講義ノートを確認し、ポイントを整理する。 書き下し文を確認しつつ、現代語訳を自ら作る。 歴史人物や事件について関連書籍を自ら調べ読む。
	[平均90]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	教材ノートの提出(受講記録や予習復習の実施度を確認する)	20%
	小テスト		0%
	試験	期末試験 講義内容から出題し、理解度や予習復習の成果も問う。	80%
	実習・学外学修活動		0%
	その他		0%

授業計画	授業回	内容
	1.	【タイトル】全体ガイダンス(シラバスの確認、出席にあたる注意事項、授業の進め方等) 教材の説明、漢文学総説、「中国日本文学史と漢文関係年表」・「史記の受容」解説 【予習】高校国語教材(漢文)を各自復習。 【復習】教材を用いて講義内容を振り返り、用語や重要事項について各自調べる。
	2.	【タイトル】教材の「登場人物関係図」を解説し、主要歴史事件の脈絡を整理する。 「秦始皇本紀」の精読に入る。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	3.	【タイトル】「秦始皇本紀」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	4.	【タイトル】「高祖本紀」の精読に入る。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	5.	【タイトル】「高祖本紀」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	6.	【タイトル】「高祖本紀」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	7.	【タイトル】「留侯世家」の精読に入る。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	8.	【タイトル】「留侯世家」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	9.	【タイトル】「留侯世家」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	10.	【タイトル】「呂后本紀」の精読に入る。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
11.	【タイトル】「呂后本紀」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。	

	12.	【タイトル】「呂后本紀」の精読を継続する。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	13.	【タイトル】「西京雜記」の精読に入る。 【予習】教材を各自予習し、疑問点を見つけて調べておく。 【復習】書き下し文を繰り返して音読し、訓読法のポイントをまとめ、現代語訳を作る。
	14.	【タイトル】期末試験と解説・総括 【予習】教材をもとに各自復習する。 【復習】漢文学・中国文学・和漢比較文学関連の書籍を博覧して多読する。

留意事項

大人数同時受講の必修科目につき、よく集中して講義を聞き、教材を十分に勉強に生かせましょう。
手元に漢和辞典を用意するか、または「ジャパンナレッジ」収録の『大漢和辞典』の使い方に慣れる。

教科書 (購入必要)

1.	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
	書籍名	
2.	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
	書籍名	
	著者	
3.	出版社	ISBN(13桁)
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
4.	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
5.	書籍名	
	著者	
	出版社	ISBN(13桁)
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
	書籍名	

参考図書

1.	書籍名	中国古典の名著 50冊が1冊でざっと学べる
	著者	寺師貴憲
	出版社	KADOKAWA ISBN(13桁) 978404606096
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	中国古典の名著にたくさん触れましょう。
2.	書籍名	漢文の読法 史記遊侠列伝
	著者	齋藤希史・田口一郎
	出版社	角川書店 ISBN(13桁) 9784044007881
	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	書籍名	史記(中国古典選18)
	著者	田中謙二・海知義
	出版社	朝日新聞社 ISBN(13桁) 4-02-260118-3

(任意購入)	3.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	漢文のルール
		著者	鈴木健一他
		出版社	笠間書院
	4.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	人間・始皇帝
		著者	鶴間和幸
		出版社	岩波書店
	5.	参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	人間・始皇帝
	著者	鶴間和幸	
	出版社	岩波書店	

その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	初回授業で冊子を配布する。教員自作のオリジナル教材、大切に使用してください。
	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	

参考URL	1.	webサイト名	好漢会・聞き流し漢文朗読
		URL	https://youtube.com/channel/UCod_HRLGHyGcIPDDOx0oFw?si=IsVjifodH8e93jPL
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	高校漢文の書き下しと朗読
	2.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5.	webサイト名	
		URL	
		参考URLに関する履修学生への連絡事項	

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
担当教員の実務経験(経歴・資格等)		
授業内容との関連性		
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
学外講師の経歴・資格等		
授業内容との関連性		

実務経験のある教員等による授業科目
(実践的教育を行う授業科目)

	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>
備考	<p>講義はすべて録画し、オンデマンドコンテンツとしてClassroomに格納するので、復習や欠席の挽回に使用してください。</p>

年度	2025
講義名	日本文学特講 I (奈良時代の作家と作品)
担当教員	大島 武宙
開講期・曜日・時限・教室	後期 水曜日 5 時限 武蔵野 1 2 0 3
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	2 年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	『万葉集』の歌の表現を中心に、奈良時代の歌人たちが作品の特徴を整理できるようになることを目標とする。そもそも、この時代の歌を読解するとき、「作家」や「作品」というとらえ方そのものを再考する必要があることも意識して、自分なりの関心に結びつけて追究できるようになるために基礎的な知識を習得する。
------	---

知識・専門性の到達目標	奈良時代以前の文学の様相について基本的な知識を身につけ、諸作品の表現についてその解釈や意義を説明できる。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	奈良時代以前の作品の具体的な表現について、現代語の感覚との差異をふまえながら検討することができる。【自己認識力・他者理解力】
思考力・判断力の到達目標	奈良時代以前の作品について、現代語とは大きく異なる文法や語彙によっていることをふまえながら読解を進めることができる。【情報分析力・論理的思考力】 奈良時代以前の作品についての先行の研究を批判的に検討・整理したうえで、自分の意見をまとめることができる。【創造的思考力】
交感力・発信力の到達目標	奈良時代以前の作品について、従来の研究を踏まえながら自分の言葉でその解釈や意義をわかりやすく説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	授業時間内には『万葉集』に収められた歌などの表現を分析し、そこいどのような場面や発想が認められるかを考えます。講義を聞いて、その内容をしっかりと理解することも大切ですが、自分で理解できたと思うこと、その内容をふたたび自分で話したり、文章に書いたりして他人に伝えられることは、実は大きく違っています。この授業では、授業後のリアクションペーパーの配布、回収や、その内容の共有、さらにそれに対する感想や批評を述べる機会の確保を通じて、教員と学生間の意見交換はもちろん、学生間の議論も促したいと考えています。
-----------------	--

授業手法	対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-
E: グループワーク	-
F: 発表 (プレゼンテーション)	-
G: 実習、フィールドワーク	-
H: 双方向授業 (ICT 活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
I: 双方向授業 (ICT 活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-
J: 講義のみ	-
K: その他	-

活用形態	対象
A: ノートPC 必携	-
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-
C: レポート課題等のオンライン提出	○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等)	○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)	-
F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用	-
G: その他	-

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習 (事前学修)	各授業 [30] 分 ・ 次回の時間にどんな内容が扱われるのかを確認し、配布された資料などがあればその内容を通読する。 ・ 理解の及ばない箇所や疑問を持った箇所をまとめておき、その部分について調べてみる。 ・ 自分なりの関心と結びつくところがないか考えてみて、その内容をメモしておく。
-----------	---

復習 (事後学修)	各授業 [60] 分 ・ 配布された資料、自分のノートを見なおして、疑問点がないか確認する。自分の言葉で説明することを試みる。 ・ 前回よりも前の授業の内容との関係を見なおして、さらに生じた疑問をメモしておく。
-----------	---

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
------	-----------	----

成績評価	課題提出(レポート)	小課題2回と、最終課題を課す予定です。ただし、最終課題は小課題の内容を含んだものとし、小課題への取り組みが活きるようにしたいと思います。	100	%
	小テスト		0	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他		0	%

授業回	内容
1.	上代文学概説① (予習)日本文学史上の「上代」の範囲、特色について調べておく。 (復習)上代文学史上の主要な文献について概要を整理しておく。
2.	上代文学概説② (予習)上代文学の韻文作品の種類、形式について調べておく。 (復習)『万葉集』および『古事記』『日本書紀』の歌についての調べ方を把握する。
3.	『万葉集』概説① (予習)『万葉集』の基本的な事項について確認しておく。 (復習)『万葉集』と前後の時代の漢詩文との関係について考える。
4.	『万葉集』概説② (予習)『万葉集』の時代区分、主要歌人について調べておく。 (復習)『万葉集』の歌人論の意義とその問題点について整理しておく。
5.	初期万葉の歌人たち① (予習)「初期万葉」の意味について調べ、整理しておく。 (復習)雄略天皇、舒明天皇の解釈を整理できるようにする。
6.	初期万葉の歌人たち② (予習)額田王について、基本的な事項を確認しておく。 (復習)額田王の歌の解釈について自分の考えをまとめる。
7.	柿本人麻呂① (予習)柿本人麻呂の歌にどんなものがあるか通覧しておく。 (復習)『万葉集』における人麻呂の位置づけについて具体的にまとめる。
8.	柿本人麻呂② (予習)人麻呂の相聞歌・旅の歌の解釈を確認しておく。 (復習)人麻呂長歌の修辞について具体的な例に基づいて考察する。
9.	柿本人麻呂③ (予習)「柿本人麻呂歌集」について基本的な事項を確認しておく。 (復習)人麻呂歌集の歌のなかで自分の関心に合う歌を選び、その意味を考察する。
10.	山上憶良 (予習)「日本挽歌」の前置漢詩文、歌の解釈を確認しておく。 (復習)山上憶良の『万葉集』における特異性についてまとめておく。
11.	大伴旅人 (予習)「讃酒歌」の解釈を確認し、どのような場面がうたわれているか考える。 (復習)大伴旅人とその周辺の歌人たちとの関係を整理する。
12.	大伴坂上郎女 (予習)「厄理願挽歌」の解釈を確認しておく。 (復習)大伴坂上郎女が後の歌人たちにどのような影響を与えたか整理する。

	13.	大伴家持① (予習)家持の「亡妾悲傷歌」の解釈を確認し、それ以前の歌との関係を考える。 (復習)大伴家持が人麻呂や憶良の影響を受けていることを確かめる。
	14.	大伴家持② (予習)家持の「世間無常歌」の解釈を確認しておく。 (復習)『万葉集』末三巻に何が示されているかを考える。

留意事項

くれぐれも、出席して、座って聞いているだけにならないように注意すること。配布された資料を持参することはもちろん、ノートを用意して授業の内容をまとめ、それに自分で調べた内容を書き加えてゆくことを、強く推奨します。自分の手元で知識や思考を蓄積し、いつでもそれを確認できるようにしておいてください。

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	万葉集					
		著者	佐竹昭広・木下正俊・小島憲之					
		出版社	塙書房	ISBN(13桁) 978-4-8273-				
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)	『万葉集』のすべての歌が確認できるものであれば結構ですが、一冊で原文・訓が確認できるものとして、本書を薦めます。					
		2.	書籍名					
			著者					
			出版社		ISBN(13桁)			
			その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)					
			3.	書籍名				
				著者				
				出版社		ISBN(13桁)		
				その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)				
				4.	書籍名			
					著者			
					出版社		ISBN(13桁)	
					その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)			
					5.	書籍名		
						著者		
						出版社		ISBN(13桁)
						その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名					
		著者					
		出版社		ISBN(13桁)			
		参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公開)					
		2.	書籍名				
			著者				
			出版社		ISBN(13桁)		
			参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公開)				
			3.	書籍名			
				著者			
				出版社		ISBN(13桁)	
				参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公開)			
				4.	書籍名		
					著者		
					出版社		ISBN(13桁)
					参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		

	参考文献に関する履修学生への通知	
	書籍名	
	著者	
	5. 出版社	ISBN(13桁)
	参考文献に関する履修学生への通知	

その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への通知	
	2. 配布教材等に関する履修学生への通知	
	3. 配布教材等に関する履修学生への通知	
	4. 配布教材等に関する履修学生への通知	
	5. 配布教材等に関する履修学生への通知	

参考URL	1. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への通知	
	2. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への通知	
	3. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への通知	
	4. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への通知	
	5. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への通知	

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	
	授業内容との関連性	

--	--	--

備考

年度	2025
講義名	日本文学特講Ⅱ(平安時代の作家と作品)
担当教員	室田 知香
開講期・曜日・時限・教室	前期 火曜日 2時限 武蔵野 1202
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	平安時代の女性の生き方、恋や結婚のあり方の概要を学び、具体的な平安文学作品の諸例を原文で読み味わう。 今期は『落窪物語』を中心に扱う。平安中期の社会の状況を学んだ上で、落窪の君が置かれている状況を理解し、この物語独特の魅力を受講者各自が本文(原文)に即して理解し説明できるようになることを目指す。 具体的な場面場面を味読することを重視したい。
------	---

知識・専門性の到達目標	平安文学作品をこまやかに読み解こうとする姿勢を身につけ、具体的な本文(原文)に即して作品に関する考察を示すことができる。【専門性】
関心・態度・人格の到達目標	平安文学について、個々の作品の具体的なあり方に目を向けながら積極的に自分の関心の幅を広げていこうとする姿勢を身につけている。【主体性】
思考力・判断力の到達目標	平安文学作品の具体的な本文(原文)に即して研究課題をみつけようとする姿勢を身につけている。【課題発見力】 確かな資料に基づいて平安文学作品の考察を進めることができる。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	確かな資料に基づいて論理的に分かりやすく自分の考えを説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	文学作品を読み解いていこうとする際に生じたさまざまな疑問や関心について、各自で講読の中で消化したり育てていったりしてください。授業では一通りの読み方を示すことになるかと思いますが、疑問のある箇所などは各自でさらに考えてみましょう。
-----------------	---

授業手法		対象
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		-
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		-
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		-
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		-
E: グループワーク		-
F: 発表(プレゼンテーション)		-
G: 実習、フィールドワーク		-
H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		-
J: 講義のみ		-
K: その他		-

活用形態		対象
A: ノートPC必携		-
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		-
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		-
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		-
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		-
G: その他		-

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	各授業	授業の前には、前回までに読んだ内容、これまでのあらすじなどを思い出し、作品の世界に浸れるよう頭を整理しておきましょう。宿題が出たときはその宿題に取り組んでおいてください。
	[60]分	

復習(事後学修)	各授業	授業のノートやプリントを見返して、作品を読み直しましょう。毎回でなくても、ある程度進んだら通して読む、ということでもよいでしょう。授業内ではどうしても作品をどぎれどぎれに扱うことになるので、ある程度の部分を「通して読む」機会を授業外学修においては大事にしてください。
	[180]分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出(レポート)	・学期末課題(レポート)	70%

成績評価	小テスト		0	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他	・平常点として、 ・中間課題などの授業内提出物	30	%

授業計画	授業回	内容
	1.	<p>イントロダクション 平安時代の女性たちの恋と結婚のあり方①——恋のなれそめについて。</p> <p>【予習】「平安時代」の「前期」「中期」「後期」とはいつ頃のどのような時代であるか、高校の日本史の教科書や国語便覧等で確認しておく。前後の時代と平安時代の差なども確認しておく。 【復習】授業で読んだ箇所を読み直す。授業を通して関心を持ったことについて、図書館に行って調べる。授業で読んだ箇所の前後も含めて作品本文を読んでみる。</p>
2.	<p>平安時代の女性の恋と結婚のあり方②——逢瀬の前後。</p> <p>【予習】前回のノートを見、学んだことを思い出しておく。前回読んだ箇所の内容を思い出しておく。 【復習】授業で読んだ箇所を読み直す。授業を通して関心を持ったことについて、図書館に行って調べる。授業で読んだ箇所の前後も含めて作品本文を読んでみる。</p>	
3.	<p>平安時代の女性の恋と結婚のあり方③——恋と結婚の境、世間への公表、居住場所、親の役割など。</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
4.	<p>『落窪物語』を読む1</p> <p>この回以降、具体的には以下の内容を扱う。 ・落窪の君という女主人公 ・道頼の恋文 ・道頼の変化 など (女主人公の設定を読み取る。 道頼の心情の推移を読み取る。)</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
5.	<p>『落窪物語』を読む2</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
6.	<p>『落窪物語』を読む3</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
7.	<p>『落窪物語』を読む4</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
8.	<p>『落窪物語』を読む5</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
9.	<p>『落窪物語』を読む6</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
10.	<p>『落窪物語』を読む7</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	
11.	<p>『落窪物語』を読む8</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>	

	12.	『落窪物語』を読む9 【予習】同上 【復習】同上
	13.	『落窪物語』を読む10 【予習】同上 【復習】同上
	14.	まとめ

留意事項

受講者の進捗等により、授業計画を多少変更することがある。
上記にない宿題や中間課題が入ることがある。

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	5.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

	4.	著者	
	出版社		ISBN(13桁)
	5.	著者	
	出版社		ISBN(13桁)

その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	適宜プリントを配布する。(ただし、学期末課題においては課題に関わる本文を各自入手する必要がある可能性があるが、詳細は授業内で説明する。)
	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	

参考URL	1.	webサイト名	
	URL		
	2.	webサイト名	
	URL		
	3.	webサイト名	
	URL		
	4.	webサイト名	
	URL		
	5.	webサイト名	
	URL		

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	
	授業内容との関連性	

備考

- ・中古文学のプレゼミ・ゼミ受講者や受講希望者は本科目を履修しておくことが望ましい。
- ・中古文学をテーマに卒業論文を書く可能性のある学生は、本科目を履修済みの場合もできるかぎり聴講しておくのが望ましい。
- ・主として作品講読の形式によっておこなう授業である。古文をある程度読める力、古典文学作品の背景に関するある程度の知識が必要である。また、大学での授業の聞き方・ノートのとり方がある程度身につけていることも必要である。
- ・板書を多用する予定であるので、黒板が見づらいのが不安と感じる受講者は、早めに来て前のほうの席に座るなど、自身で解決に努めること。ただし、1限があってもどうしても早めに来れないが前のほうの席に座りたいという場合は、授業初回に申し出てください。対応を考えます。

年度	2025
講義名	日本文学特講Ⅳ(江戸時代の作家と作品)
担当教員	三浦 一郎
開講期・曜日・時限・教室	後期 木曜日 4時限 武蔵野 1202
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	近世文学には実に多種多様なジャンルがあるが、この授業ではその入門編として、近世文学を代表する芭蕉、西鶴、近松の作品を中心に取り上げて、一つずつ丁寧に読解する。具体的には、俳諧・俳文、浮世草子、浄瑠璃などの作品を扱い、それぞれの特徴と魅力を学ぶ。
------	--

知識・専門性の到達目標	近世文学に親しみ、作品の特徴や魅力について理解を深めている。また、実際に作品を読み進める中で、その理解のために必要な基礎知識を身につけている。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	近世文学について、漠然としたイメージや思い込みではなく、個々の作品の具体的な表現に基づいて関心の幅を自ら積極的に広げていく姿勢と意欲を身につけている。【課題発見力】 また、本文を表現に即して丁寧に読解し、思い込みによらずに鑑賞する方法の基礎を身につけている。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	本文を表現に即して丁寧に読解し、思い込みによらずに鑑賞して、その魅力を人に説得的に伝える方法の基礎を身につけている。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	【問う】各回の授業で取り上げる作家と作品について、どこにその特質や魅力があるか、それは作品のどこから言えるのか、作品本文の中に具体的に手がかりとなる表現や設定を見出だす。 【考動する】上記の表現や設定からどのようなことがわかるのか、配布された本文資料や参考資料を参考にしながら、自分で事前に調べ考えて、言語化する。 【カタチにする】各回の授業で取り上げる作家と作品について、自ら問いを立てて事前に調べ考えたことをメモなどにまとめ、理解が不十分な点や疑問に思う点等が整理された状態で授業に臨む。 【見つめ直す】授業での解説を聞き、自分の考えに足りなかったこと、見えていなかったこと、また誤解や思い込みがなかったかを確認し、あれば適切な形に理解を修正する。その積み重ねによって、江戸時代の文学に対する理解を深めていく。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	-
	C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-
	E: グループワーク	-
	F: 発表(プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-
	I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
	J: 講義のみ	-
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	○
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
	E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	○
G: その他	-	

* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	各授業	事前に配布された作品の本文資料と参考資料に目を通し、わからない語句や事項について、『日本国語大辞典』『日本古典文学大辞典』などの辞典・事典類を見ればわかる範囲のことは自分で事前に調べ、整理しておく。
	[平均]分	

復習(事後学修)	各授業	講義内容を振り返り、要点をまとめる。 また、授業を受けて興味関心を持った点、あるいは疑問点や理解が不十分な点を書き出す。 以上の内容を授業後のコメントとして、クラスルームの所定のスレッドを通じて提出し、次回以降の授業でフィードバックできるようにする。
	[平均]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)	期末に成績評価レポート(4,000字程度)を提出する。	60%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	授業に関するコメント(200~400字程度)を毎回の授業後に、クラスルームを通じて提出する。出欠の確認を兼ねる。	40%

授業計画	授業回	内容
	1.	<p>ガイダンス(授業の進め方、成績評価基準、近世文学を理解するための基礎知識など) 芭蕉の俳諧・俳文1</p> <p><予習>『日本古典文学大辞典』で、芭蕉、西鶴、近松とその作品についてどのように説明しているか調べておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。(コメントの提出や授業資料の共有のために、この授業ではグーグルクラスルームを利用する。)</p>
	2.	<p>芭蕉の俳諧・俳文2</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	3.	<p>芭蕉の俳諧・俳文3</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	4.	<p>芭蕉の俳諧・俳文4</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	5.	<p>芭蕉の俳諧・俳文5</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	6.	<p>西鶴の浮世草子1</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	7.	<p>西鶴の浮世草子2</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	8.	<p>西鶴の浮世草子3</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	9.	<p>西鶴の浮世草子4</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	10.	<p>西鶴の浮世草子5</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
	11.	<p>近松の浄瑠璃1</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>

	7. 近松の浄瑠璃2
12.	<p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
13.	<p>近松の浄瑠璃3</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p>
14.	<p>近松の浄瑠璃4</p> <p><予習>事前に配布された本文資料や授業資料に目を通して大意を把握し、疑問点を自分なりに整理しておく。</p> <p><復習>授業を受けて興味関心を持った点や、疑問を持った点などについて書き出し、授業後のコメントとして指定の期日までに提出する。</p> <p>また全14回の授業を通じて、改めて疑問点や理解が十分ではない点がないかを確認し、それらがあるのであれば、先延ばしにしようやむやにもせず、担当教員に質問してきちんと疑問を解消する。</p>

留意事項	<p>出欠はコメントの提出によって確認する。</p> <p>遅刻は2回で欠席1回と数える。それも含めて、5回以上欠席した学生に単位は認定しない。</p> <p>また、期末レポートを期限までに提出しなかった場合も単位は認定しない。</p>
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	5.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)

	4.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項	
	5.	書籍名 著者 出版社	ISBN(13桁)
		参考文献に関する履修学生への連絡事項	

その他 (配布教材等により購入不要)	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	本文資料や授業資料、参考資料などはPDFにして、オンライン(-googleクラスルームを利用)で事前にデータを共有する。そのため、教科書を購入する必要は無い。その他、必要に応じて参考文献を授業時間内に紹介する。
	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項	

参考URL	1.	webサイト名 URL 参考文献に関する履修学生への連絡事項		
	2.	webサイト名 URL 参考文献に関する履修学生への連絡事項		
	3.	webサイト名 URL 参考文献に関する履修学生への連絡事項		
	4.	webサイト名 URL 参考文献に関する履修学生への連絡事項		
	5.	webサイト名 URL 参考文献に関する履修学生への連絡事項		

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
授業内容との関連性		
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		-
授業内容との関連性		
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		-

備考

年度	2025
講義名	日本文学研究 I (奈良時代の文学と文化)
担当教員	大島 武宙
開講期・曜日・時限・教室	前期 月曜日 4 時限 武蔵野 1302
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	3 年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	<p>「三角関係」の上代文学 恋愛を題材にした文学作品には、必ずと言ってよいほど、「三角関係」が登場します。三人の男女が愛しい、憎しみあう三角関係が、『万葉集』や『古事記』ではどのような意味を持つのか、考えてみましょう。この授業では、奈良時代の文学と文化について、その概要が説明できるようになること、日本語の文学の基盤が成立した時代に、人々がどのようなことを考え、どのような規範のなかで生活していたのかを考えることが目標です。</p>
------	--

知識・専門性の到達目標	奈良時代以前の文学における歌や散文の形式についての知識を習得している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	奈良時代以前の文学について、その歴史的背景や習俗の面から理解することを試み、具体的な表現について考察すべき問題を発見することができる。【他者理解力・主体性】
思考力・判断力の到達目標	奈良時代以前の歌や散文の諸表現について、先行する研究を参照・整理したうえで自分の意見をまとめることができる。【情報分析力・論理的思考力】【課題発見力】
交感力・発信力の到達目標	奈良時代以前の歌や散文の諸表現について、注釈書類を参照したうえで自分の言葉でその解釈や意義をわかりやすくまとめることができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>講義を聞いて、その内容をしっかりと理解することも大切ですが、自分で理解できたと思うことと、その内容をふたたび自分で話したり、文章に書いたりして他人に伝えられることは、実は大きく違っています。この授業では、授業後のリアクションペーパーの配布、回収や、その内容の共有、さらにそれに対する感想や批評を述べる機会の確保を通じて、教員と学生間の意見交換はもちろん、学生間の議論も促したいと考えています。</p>
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-	
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-	
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-	
E: グループワーク	-	
F: 発表 (プレゼンテーション)	-	
G: 実習、フィールドワーク	-	
H: 双方向授業 (ICT 活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○	
I: 双方向授業 (ICT 活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-	
J: 講義のみ	○	
K: その他	-	

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC 必携	-
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-	
C: レポート課題等のオンライン提出	○	
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams 等)	-	
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC 等の Open Educational Resources)	-	
F: Zoom、Google Meet 等のミーティングツールの活用	-	
G: その他	-	

* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習 (事前学修)	各授業	予告された次回の授業内容について、自分の知識をまとめ、関心に沿って簡単に調査をしておく。
	[30] 分	

復習 (事後学修)	各授業	授業内容をふり返り、疑問点などを整理する。授業で説明された内容とは異なる説がないかを確認し、比較検討を試みる。
	[60] 分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)	小課題2回と、最終課題を課します。ただし、最終課題は2回の小課題の内容を含んだものとし、小課題への取り組みが活きるように設定する予定です。	100 %

成績評価	小テスト		0	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他		0	%

授業計画	授業回	内容
	1.	上代文学概説①『万葉集』『懐風藻』 (予習) 上代の文学、歴史について復習しておく。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	2.	上代文学概説②『古事記』『日本書紀』 (予習) 上代の文学作品について、特徴をまとめておく。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	3.	古典文学の三角関係① (予習) 古典文学の作品のなかで、三角関係をあつかったものを調べる、思い出す。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	4.	古典文学の三角関係② (予習) 古典文学の作品のなかで、三角関係をあつかったものを調べる、思い出す。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	5.	『万葉集』の三角関係① 蒲生野の歌 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	6.	『万葉集』の三角関係② 蒲生野の歌 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	7.	『万葉集』の三角関係③ 天武天皇の皇子女たち (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	8.	『万葉集』の三角関係④ 天武天皇の皇子女たち (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	9.	『万葉集』の三角関係⑤ 天武天皇の皇子女たち (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	10.	『万葉集』の三角関係⑥ 伝説歌の女たち (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	11.	『万葉集』の三角関係⑦ 伝説歌の女たち (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
12.	『古事記』の三角関係① イハノヒメの物語 (予習) 次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習) 授業の内容を整理し、疑問点をあげる。	

	13.	『古事記』の三角関係②イハノヒメの物語 (予習)次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習)授業の内容を整理し、疑問点をあげる。
	14.	『万葉集』と夏目漱石「草枕」 (予習)次回とりあげられる作品を読み、疑問点をあげる。 (復習)授業の内容を整理し、疑問点をあげる。

留意事項

くれぐれも、出席して、座って聞いているだけにならないように注意すること。配布された資料を持参することはもちろん、ノートを用意して授業の内容をまとめ、それに自分で調べた内容を書き加えてゆくことを、強く推奨します。自分の手元で知識や思考を蓄積し、いつでもそれを確認できるようにしておいてください。

教科書 (購入必要)	1.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)	万葉集 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 講書房 『万葉集』の歌がすべて確認できる書籍であれば結構です。一冊ですべての歌の原文・訓が確認できるものとして、本書を薦めます。	ISBN(13桁) 978-4-8273-
	2.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	3.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	4.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)
	5.	書籍名 著者 出版社 その他、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公開)		ISBN(13桁)

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名 著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連絡事項		ISBN(13桁)
	2.	書籍名 著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連絡事項		ISBN(13桁)
	3.	書籍名 著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連絡事項		ISBN(13桁)
	4.	書籍名 著者 出版社 参考図書に関する履修学生への連絡事項		ISBN(13桁)

	書籍名	
	著者	
5.	出版社	ISBN(13桁)
	参考文献に関する履修学生への連携	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連携	
	2. 配布教材等に関する履修学生への連携	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連携	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連携	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連携	
参考URL	1. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への連携	
	2. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への連携	
	3. webサイト名	
	URL	
	参考文献に関する履修学生への連携	
	4. webサイト名	
URL		
参考文献に関する履修学生への連携		
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		

備考

年度	2025
講義名	日本文学研究Ⅱ(平安時代の文学と文化)[2/2]
担当教員	室田 知香
開講期・曜日・時限・教室	後期 木曜日 1時限 武蔵野7201
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	3年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	『源氏物語』桐壺巻の講読。(進度によって帚木巻などを引き続き読み進める。)また、光源氏の最初期の様相を学びながら、『源氏物語』研究の諸問題に触れる。 平安文学作品をこまやかに読み解く姿勢を学び、具体的な本文(原文)に即して考察を示すことができる力の涵養を特にねらいとしている。
------	---

知識・専門性の到達目標	平安文学作品をこまやかに読み解こうとする姿勢を身につけ、具体的な本文(原文)に即して作品に関する考察を示すことができる。また、平安時代の文学と文化の関わりを考えることができる【専門性】
関心・態度・人格の到達目標	平安文学について、みずから個々の作品の具体的なあり方に目を向け、積極的に自分の関心の幅を広げていくことができる。【主体性】
思考力・判断力の到達目標	平安文学作品の具体的な本文(原文)に即して研究課題を見つけようとする姿勢を身につけている。【課題発見力】 確かな資料に基づいて平安時代の文学や文化の考察を進めることができる。【情報分析力・論理的思考力】
交感力・発信力の到達目標	確かな資料に基づいて論理的に分かりやすく自分の考えを説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	文学作品を読み解いていこうとする際に生じたさまざまな疑問や関心について、各自で講読の中で消化したり育てていったりしてください。授業では一通りの読み方を示すことになるかと思いますが、疑問のある箇所などは各自でさらに考えてみましょう。
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	-	
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-	
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-	
E: グループワーク	-	
F: 発表(プレゼンテーション)	-	
G: 実習、フィールドワーク	-	
H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	○	
I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-	
J: 講義のみ	-	
K: その他	-	

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	-
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-	
C: レポート課題等のオンライン提出	○	
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	-	
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-	
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	-	
G: その他	-	

* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	各授業	授業の前には、前回までに読んだ内容、これまでのあらすじなどを思い出し、作品の世界に浸れるよう頭を整理しておきましょう。宿題が出たときはその宿題に取り組んでおいてください。
	[60]分	

復習(事後学修)	各授業	授業のノートやプリントを見返して、作品を読み直しましょう。毎回でなくても、ある程度進んだら通して読む、ということでもよいでしょう。授業内ではどうしても作品をとぎれとぎれに扱うことになるので、ある程度の部分を「通して読む」機会を授業外学修においては大事にしてください。
	[180]分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出(レポート)	・学期末課題(レポート)	70%

成績評価	小テスト		0	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他	・平常点として、 ・中間課題などの授業内提出物	30	%

授業回	内容
1.	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『源氏物語』について ・『源氏物語』が成立した時代の社会について
2.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐壺巻を講読する。具体的な着眼点は以下のとおり。 ・桐壺帝の人物像 ・桐壺帝の後宮の様相 ・桐壺更衣の歌 ・光源氏の臣籍降下 ・桐壺巻の巻末における政治の様相など。 <p>【予習】前回のノートを見、学んだことを思い出しておく。前回読んだ箇所の内容を思い出しておく。 【復習】授業で読んだ箇所を読み直す。授業を通して関心を持ったことについて、図書館に行って調べる。授業で読んだ箇所の前後も含めて作品本文を読んでみる。</p>
3.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む2</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
4.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む3</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
5.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む4</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
6.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む5</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
7.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む6</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
8.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む7</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
9.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む8</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
10.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む9</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>
11.	<p>『源氏物語』桐壺巻を読む10</p> <p>【予習】同上 【復習】同上</p>

	12.	『源氏物語』桐壺巻を読む11 【予習】同上 【復習】同上
	13.	『源氏物語』桐壺巻を読む12 【予習】同上 【復習】同上
	14.	まとめ

留意事項	<p>受講者の進度等により、授業計画を多少変更することがある。 桐壺巻を読み終えられた場合は帚木巻など他の巻の講読に進む。 上記にない宿題や中間課題が入ることがある。</p>
------	---

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
2.	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		
	著者		
3.	出版社	ISBN(13桁)	
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
4.	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	ての世、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
2.	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		
	著者		
3.	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項(非公)		
	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	

	4. 出版社	ISBN(13桁)
	参考文献に関する履修学生への連絡事項	
	5. 出版社	ISBN(13桁)
	参考文献に関する履修学生への連絡事項	

その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	適宜プリントを配布する。(ただし、学期末課題においては課題に関わる本文を各自入手する必要があるが、詳細は授業内で説明する。)
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	

参考URL	1.	webサイト名	
		URL	
		参考文献に関する履修学生への連絡事項	
	2.	webサイト名	
		URL	
		参考文献に関する履修学生への連絡事項	
	3.	webサイト名	
		URL	
		参考文献に関する履修学生への連絡事項	
	4.	webサイト名	
	URL		
	参考文献に関する履修学生への連絡事項		
5.	webサイト名		
	URL		
	参考文献に関する履修学生への連絡事項		

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	
	授業内容との関連性	

備考

- ・中古文学のゼミ受講者は本科目を履修しておくことが望ましい。
- ・中古文学をテーマに卒業論文を書く可能性のある学生は、本科目を履修済みの場合もできるかぎり聴講しておくのが望ましい。
- ・主として作品講読の形式によっておこなう授業である。古文をある程度読める力、古典文学作品の背景に関するある程度の知識が必要である。
- ・「日本文学特講Ⅱ」よりもややレベルの高い内容を予定しているので、「日本文学特講Ⅱ」をとった上での履修を勧める。

年度	2025
講義名	日本語学特講(古代の日本語)
担当教員	三好 伸芳
開講期・曜日・時限・教室	前期 木曜日 3時限 武蔵野 1102
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	2年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、古代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。古代日本語には、現代日本語において失われた独自の特徴が観察され、歴史的に同一の日本語であっても直感的な理解が困難である。現代日本語との対照言語学的観点に十分留意しつつ、古代語においてどのような言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【ことばの力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を適切なことばで説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、古代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語からは十分に理解できない日本語の側面や、歴史的日本語に見られる独自の言語的特徴について論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業手法		対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり		—
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし		—
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)		—
E: グループワーク		—
F: 発表 (プレゼンテーション)		—
G: 実習、フィールドワーク		—
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
J: 講義のみ		○
K: その他		—

活用形態		対象
A: ノートPC必携		—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
G: その他		—

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習 (事前学修)	各授業 [120]分 予習課題について調べてくる。
-----------	-----------------------------------

復習 (事後学修)	各授業 [120]分 毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
-----------	--

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)		0 %

成績評価	小テスト	毎回の授業内試験	80	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20	%

授業回	内容
1.	第1回 日本語史における古代語 予習(120分):「古代語」について調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 上代の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 上代の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 上代の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 中古の音韻・表記(1):音韻体系と仮名 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 中古の音韻・表記(2):音韻の変遷 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 中古の語彙(1):和文語と漢文訓読語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 中古の語彙(2):記録語 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 中古の文法(1):準体句 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 中古の文法(2):係り結び 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 中世前期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 中世前期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

	13.	第13回 中世前期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	14.	第14回 古代語から近代語へ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
	2.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
		著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
		出版社	放送大学教育振興会
		ISBN(13桁)	978-4595305474
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	

	参考図書に関する履修学生への通												
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 2. 配布教材等に関する履修学生への 3. 配布教材等に関する履修学生への 4. 配布教材等に関する履修学生への 5. 配布教材等に関する履修学生への	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。											
参考URL	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通												
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="300 1034 1391 1115">実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th data-bbox="1391 1034 1509 1115">対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="300 1115 1391 1281"> a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等) </td> <td data-bbox="1391 1115 1509 1281"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1281 1509 1317">授業内容との関連性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1317 1391 1482"> b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等 </td> <td data-bbox="1391 1317 1509 1482"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="300 1482 1509 1518">授業内容との関連性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="300 1518 1391 1684"> c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的 </td> <td data-bbox="1391 1518 1509 1684"></td> </tr> </tbody> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別	対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		授業内容との関連性		b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		授業内容との関連性		c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	
実践的教育を行う授業科目の種別	対象												
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)													
授業内容との関連性													
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等													
授業内容との関連性													
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的													
備考													



年度	2025
講義名	日本語学研究(近代の日本語)
担当教員	三好 伸芳
開講期・曜日・時限・教室	前期 木曜日 4時限 武蔵野 1201
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	3年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、近代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。近代日本語は、現代日本語と地続きのものであり、現在の日本語の体系が形成された過程を知るうえで重要である。現代日本語との対照言語学的観点にも十分留意しつつ、どのような動機で言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考力・判断力の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身につける。【ことばの力】
交感力・発信力の到達目標	日本語の特質を適切なことばで説明することができる。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、近代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語がどのような過程を経て形成されたのかという点について、歴史的日本語と現代日本語との直接的な繋がりを論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業手法		対象
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		—
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		—
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		—
E: グループワーク		—
F: 発表(プレゼンテーション)		—
G: 実習、フィールドワーク		—
H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
J: 講義のみ		○
K: その他		—

活用形態		対象
A: ノートPC必携		—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C: レポート課題等のオンライン提出		○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		—
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		—
G: その他		—

* 「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	各授業	予習課題について調べてくる。
	[120]分	

復習(事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出(レポート)		0 %

成績評価	小テスト	毎回の授業内試験	80	%
	試験		0	%
	実習・学外学修活動		0	%
	その他	毎回のコメント提出、質疑等を通じての授業参加態度	20	%

授業回	内容
1.	第1回 日本語史における近代語 予習(120分):「近代語」について調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 中世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 中世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 中世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 近世前期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 近世前期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 近世前期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 近世後期の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 近世後期の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 近世後期の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 近代の音韻・表記 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 近代の語彙 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

	13.	第13回 近代の文法 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
	14.	第14回 近代語から現代語へ 予習(120分):提示された予習課題を調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項	
------	--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
	2.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
	3.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
	4.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	
		書籍名	
	5.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		この冊、教科書に関する履修学生への連絡事項(非公)	

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新訂 日本語の歴史	
		著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己	
		出版社	放送大学教育振興会	ISBN(13桁) 978-4595305474
		参考図書に関する履修学生への連絡事項		
		書籍名		
	2.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		参考図書に関する履修学生への連絡事項		
		書籍名		
	3.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		参考図書に関する履修学生への連絡事項		
		書籍名		
	4.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		参考図書に関する履修学生への連絡事項		
		書籍名		
	5.	著者		
		出版社	ISBN(13桁)	

	参考図書に関する履修学生への通														
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項 5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。													
参考URL	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通 5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への通														
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="284 1012 1391 1115">実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th data-bbox="1391 1012 1509 1115">対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="284 1115 1391 1281"> a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等) </td> <td data-bbox="1391 1115 1509 1281"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="284 1281 1509 1326">授業内容との関連性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1326 1391 1482"> b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等 </td> <td data-bbox="1391 1326 1509 1482"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="284 1482 1509 1527">授業内容との関連性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1527 1391 1684"> c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的 </td> <td data-bbox="1391 1527 1509 1684"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="284 1684 1509 1953"></td> </tr> </tbody> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別	対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		授業内容との関連性		b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		授業内容との関連性		c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的			
実践的教育を行う授業科目の種別	対象														
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)															
授業内容との関連性															
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等															
授業内容との関連性															
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的															
備考															



年度	2025
講義名	日本の演劇(古典芸能)
担当教員	三浦 裕子
開講期・曜日・時限・教室	前期 月曜日 4時限 武蔵野 1202
開講キャンパス	武蔵野
開講学年	1年生
単位数	2
授業の方法	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	<p>能楽(能・狂言)は室町時代(中世)に芸術的基礎を固めた古典芸能であり、人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊(くみおどり)は江戸時代(近世)に成立した古典芸能である。</p> <p>この四つのジャンルに共通していることは、音楽・舞踊・演劇が不可分に融合している総合芸術である点である。</p> <p>また、能楽は人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に多大な影響を与え、人形浄瑠璃文楽と歌舞伎は同じ作品を共有しているなど、相互に深い関連を持っているとも言える。</p> <p>本授業では以下の五つの視点から日本の古典芸能へのアプローチを試みる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古典芸能の歴史的な流れを概観し、能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊などの古典芸能の特徴を学ぶ。 2 蛇に変身した女性が男性を追いかけるというモチーフが、古代の歴史書『古事記』から現代のゲームまで、広く日本の芸能・文学などに見られる。このモチーフが能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊などの古典芸能にどう描かれているかを、各々の作品の講読と鑑賞を通じて理解する。 3 能楽師など日本の古典芸能の実演家のお話を聞き、実演を鑑賞する。 4 以上を踏まえて、総合的視野から日本の古典芸能を理解する。 5 日本の古典芸能の文化財としての価値を理解する。その方法として、古典芸能を未来に継承していく意味を検討し、自分自身の考えを深めていく。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本の古典芸能(能・狂言・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊など)についての基本的知識を備えており、その特徴を把握している。 【教養・基礎力】
関心・態度・人格の到達目標	日本の古典芸能の諸作品を、様々な文学・ジャンル・時代・地域・文化との関連から読み解き、分析することができる。【自己認識力・他者理解力】 日本の古典芸能の美を様々な観点から理解・鑑賞することができる。【主体性・実行力】
思考力・判断力の到達目標	日本の古典芸能の諸作品について、台本の講読と演出意図の把握を通じて、分析的確に行う方法の概要を理解している。【論理的思考力・判断力】
交感力・発信力の到達目標	日本の古典芸能について、自分の考えを発表し、議論する方法の概要を理解している。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>台本の講読および実演家による演技・動画の鑑賞を通じて、日本の古典芸能が描く世界を自分ごととしてとらえる感性を磨く。固定観念を超えて、古典芸能の美を理解する姿勢を身につけ、考える。その結果を発表し、他の学生とディスカッションを行う。この過程を経て他者を尊重することを学ぶ。また、他者の意見を聞いて、新たな問いを発見し、古典芸能への理解を深め、感性をさらに磨く。</p> <p>以上のことを習慣化するよう努める。</p>
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業手法	対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	○	
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-	
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	
E: グループワーク	○	
F: 発表(プレゼンテーション)	○	
G: 実習、フィールドワーク	-	
H: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-	
I: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○	
J: 講義のみ	-	
K: その他	○	

【古典芸能の実演家をゲスト・スピーカーに迎え、実技とお話をうかがう】

授業における「ICTの活用」について	活用形態	対象
	A: ノートPC必携	○
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○	
C: レポート課題等のオンライン提出	○	
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○	
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	○	
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	○	
G: その他	○	

・「Open Educational Resources」とは教育に関する資料であり、誰でも自由に使用することができるものを指す用語

予習(事前学修)	<table border="1"> <tr> <th>各授業</th> <td>HPの閲覧、辞典類の講読などを通じて、日本の古典芸能の基礎知識や特徴を調べ、ノートに要約する。</td> </tr> <tr> <td>[平均]分</td> <td></td> </tr> </table>	各授業	HPの閲覧、辞典類の講読などを通じて、日本の古典芸能の基礎知識や特徴を調べ、ノートに要約する。	[平均]分	
各授業	HPの閲覧、辞典類の講読などを通じて、日本の古典芸能の基礎知識や特徴を調べ、ノートに要約する。				
[平均]分					

復習	<table border="1"> <tr> <th>各授業</th> <td>授業の内容を復習し、ノートを整理する。また、能(道成寺)など日本の古典芸能を収録した動画を視聴する。</td> </tr> <tr> <td>[平均]分</td> <td></td> </tr> </table>	各授業	授業の内容を復習し、ノートを整理する。また、能(道成寺)など日本の古典芸能を収録した動画を視聴する。	[平均]分	
各授業	授業の内容を復習し、ノートを整理する。また、能(道成寺)など日本の古典芸能を収録した動画を視聴する。				
[平均]分					

(事後学修)																			
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価項目の詳細内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題提出(レポート)</td> <td>授業時に適宜、課す。興味をもって課題に取り組む姿勢と授業の理解度を確認する</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>授業の理解度を確認する</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>実習・学外学修活動</td> <td></td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>〈娘道成寺〉の所化のセリフの創作、およびディスカッションなどにおける積極性と授業の集中度</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価項目の詳細内容	割合	課題提出(レポート)	授業時に適宜、課す。興味をもって課題に取り組む姿勢と授業の理解度を確認する	30%	小テスト		0%	試験	授業の理解度を確認する	50%	実習・学外学修活動		0%	その他	〈娘道成寺〉の所化のセリフの創作、およびディスカッションなどにおける積極性と授業の集中度	20%
	評価項目	評価項目の詳細内容	割合																
	課題提出(レポート)	授業時に適宜、課す。興味をもって課題に取り組む姿勢と授業の理解度を確認する	30%																
	小テスト		0%																
	試験	授業の理解度を確認する	50%																
	実習・学外学修活動		0%																
その他	〈娘道成寺〉の所化のセリフの創作、およびディスカッションなどにおける積極性と授業の集中度	20%																	

授業計画	授業回	内容
	1.	日本の古典芸能の概観 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧し、日本の古典芸能についての予備知識を得る 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	2.	日本の四大古典芸能である能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊の特徴に関する考察 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧し、疑問点をまとめておく 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	3.	道成寺劇のモチーフの広がりを概観する 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	4.	『今昔物語集』など能〈道成寺〉の本説(典拠)の講読 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	5.	蛇の登場する文学・絵画の考察 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	6.	能〈道成寺〉の講読と鑑賞(1) 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	7.	能〈道成寺〉の講読と鑑賞(2) 予習: 能〈道成寺〉の演技を考える 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
	8.	能〈道成寺〉の講読と鑑賞(3) 予習: 能〈道成寺〉の演出を考える 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポートに取り上げるテーマを考える
	9.	能〈道成寺〉と『今昔物語集』との比較検討 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポート作成のための調査を行う
	10.	能〈道成寺〉と絵巻『道成寺縁起』との比較検討 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポート作成のための調査を行う
	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に見る〈道成寺〉関係の諸作品の講読と鑑賞(1)	

11.	予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧するなどして、諸芸能の特徴を理解する 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポートを作成する
12.	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に見る〈道成寺〉関係の諸作品の講読と鑑賞(2) 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧するなどして、諸芸能の特徴を理解する 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポートを作成する
13.	古典芸能の文化的価値を考える—授業の振り返りを兼ねて 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
14.	壬生狂言・近代能楽集(三島由紀夫作の戯曲集)・ゲーム・ポカロ曲に見る〈道成寺〉関係の諸作品の講読と鑑賞およびまとめ 予習: 配布資料を読む 復習: レポートを作成する

留意事項	出席が2/3に達していない場合は評価の対象となりません。
------	------------------------------

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	対訳で楽しむ 道成寺
		著者	三宅晶子
		出版社	檜書店 ISBN(13桁) 4-8279-1014-6
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	1.	書籍名	初めての能・狂言
		著者	企画/横浜能楽堂 文/三浦裕子
		出版社	小学館 ISBN(13桁) 4-09-343113-2
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	
	2.	著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	
		著者	

参考図書 (任意購入)	1.	因習な履修学生への通	
		書籍名	
		著者	
	3.	出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に 関する履修 学生への通	
		書籍名	
		著者	
	4.	出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に 関する履修 学生への通	
	書籍名		
	著者		
5.	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に 関する履修 学生への通		

その他 (配布教材等により購入不 要)	1.	配布教材等 に関する履 修学生への 通	
	2.	に関する履 修学生への 通	
	3.	に関する履 修学生への 通	
	4.	に関する履 修学生への 通	
	5.	に関する履 修学生への 通	

参考URL	1.	webサイト名	国立劇場
		URL	www.ntjac.go.jp
		参考URLに 関する履修 学生への連 絡事項	
	2.	webサイト名	文化庁
		URL	www.bunka.go.jp
		参考URLに 関する履修 学生への連 絡事項	
	3.	webサイト名	
		URL	
	4.	webサイト名	
		URL	
	5.	webサイト名	
		URL	

実践的教育を行う授業科目の種別		対象
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
授業内容との関連性		
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		-
授業内容との関連性		

実務経験のある教員等による授業科目
(実践的教育を行う授業科目)

	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>
備考	<p>必要に応じて資料を配布する。</p> <p>鑑賞にふさわしい古典芸能の公演を紹介するので、なるべく実際の舞台を見るよう努めること。それが難しい場合は動画を視聴すること。</p> <p>能楽資料センター(武蔵野キャンパス1号館3階。開室、月～木)は能・狂言をはじめ日本の古典芸能に関する資料が充実している研究所である。ここを活用して古典芸能の理解度を高めること。</p>